企画展示 館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。 ご来館いただいた際に是非ご覧ください。

ライブラリープラザ (1F)

■ しあわせぐるり、しこくるり。~ 巡る。四国 ~ (期間:2024年4月~6月)

四方を海に囲まれ、豊かな自然に恵まれた 徳島県、香川県、愛媛県、高知県の4つの 県からなる四国。

温暖な気候に加えて、豊かなお国言葉に代 表される人情の温かさがあり、その魅力は 山、海、川、などの美しい自然、美味しい食、 歴史、文化、伝統芸能など多岐に亘ります。

古くから地理的、産業的な特性などにより それぞれの個性が磨かれてきた四国4県で すが、「伊予竹に土佐紙貼りて阿波ぐれば、 讃岐うちわで四国涼しい」という言葉にも あるとおり、連携による一体感の醸成もま た歴史的に図られてきたところです。

現在も地域固有の自然や文化を繋いで四 国全体の魅力を生み出し、さらに相乗的 からがベストシーズンといえる四国につい に高めていこうとする取り組みが進んでい て紹介していきます。 ます。



今回は、そういったサステナブルな観光振 興における各種観光資源の紹介と、地域 共有の資産でもあり、広域周遊型観光そ のものでもある四国遍路など、まさにこれ

協力:一般社団法人四国ツーリズム創造機構

エントランスギャラリー (1F)

観光財源研究会『観光財源ガイドブック 一豊かな観光地の未来のために一」

「観光財源研究会」は2017度に設 置され、宿泊税導入や入湯税の超 過課税にかかる技術的、法的な 問題について整理を行い、検討成 果をDMOや自治体に共有するこ とで、自立的な観光地域づくりを 支援しています。今回は観光財源 の必要性や観光財源の導入や使



途に関するポイントをまとめ出版された「観光財源ガイドブッ ク| から、その概要を展示紹介しています。

貴重書ギャラリー (1F)

■ 観光財源 ~入湯税の歴史を辿って~

日本で利用できる観光振興のための公的財源のうち、古くは 江戸時代に遡って始まったのが温泉地おける入湯税です。 今回の企画展示では、法定税のひとつである入湯税の歴史 を辿るとともに、温泉地の観光振興における税の活用方法 についても所蔵する蔵書から選定してご紹介いたします。

当財団新刊のご案内

観光財源ガイドブック

観光は地域発展にとって重要な要素ですが、観光振 興には当然お金がかかります。中長期的なビジョンの 元に数年かけて取り組むことも多く、基本、単年度主義 の補助金では限界あることは、皆さんもお気づきでは ないでしょうか。ではどうしたらいいのか? を考えます。 (公財) 日本交通公社 理事·観光研究部長



観光文化260号

コロナ禍での足踏みではありましたがエンデ ミック社会の中で観光は再び、世界中で力強く 動き出しています。昨年、当財団の研究員を対 象に海外視察を実施しました。現地で実際に見 て、聴いて、感じた事項を共有しつつ、これから の観光がダイナミズムを持って展開していく方 向について考察しました。



書籍をご購入希望の場合はアマゾン通販サイトよりお願いいたします。



港区の専門図書館紹介

日本で唯一の広告専門図書館 アドミュージアム東京 ライブラリー The Ad Museum Tokyo Library

当館は、広告とマーケティングの関連図書を約3万冊 公開している専門図書館です。公益財団法人吉田秀雄 記念事業財団が運営しており、広告をテーマにした一 般公開型のミュージアム「アドミュージアム東京」に併 設されています。図書の貸出はしていませんが、ミュージ アムスペースの常設展示や企画展示とともに、どなたとして、実務や研究のリサーチの場として、ぜひご活用 でも自由に、無料でご利用いただけます。

広告関連アワードの作品集や業界関連団体の発行物 など、一般流通の少ない図書の収集に努めているほか、 当館が所蔵するテレビCMやポスターなど、約20万点の 広告資料が検索できるデータベースも閲覧できる点が 特徴です。それらをレファレンスにも活用して多角的な 情報提供を行っています。

広告は"時代を映す鏡"ともいわれ、その時代の大衆 文化や消費文化が等身大で表現されている、特徴的な 視座をもった資料です。広告への興味関心を深める場 ください。



東京都港区東新橋1-8-2 カレッタ汐留 ●開館時間 火-土 12:00~18:00 日曜日・月曜日・年末年始・ ほか臨時休館あり

https://www.admt.jp/



たびとしょ

- 旅の図書館 News Letter -

2024年4月号





Library of Tourism Culture Topics Recommended Books

「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

第18回 自然公園研究会を開催しました

~保護と利用の好循環を生むための自然体験の計画と地域財源の確保・活用を考える~





東京大学大学院:山本 清龍 氏 株式会社ヤマップ:大十 洋史 氏 **環培省:Ⅲ瀨 選 氏** 北海道大学大学院:愛甲 哲也 氏

首記研究会を3月5日に当財団ライブラリーホールにて開催しまし た。環境省国立公園利用推進室長補佐川瀨翼氏、株式会社ヤマッ プアウトドア事業開発部長 大土洋史氏、東京大学大学院准教授 山本清龍氏のご講演をはじめ、北海道大学大学院教授 愛甲哲也氏 にコーディネートいただいたディスカッションなど盛況のうちに閉会 となりました。

今回のテーマは、「保護と利用の好循環を生むための自然体験の 計画と地域財源の確保・活用を考える」でした。自然公園法の改正、 満喫プロジェクトの推進により自然体験活動促進計画制度が新設 され、インタープリテーション全体計画が策定されるなど、近年は質 の高い利用体験の計画づくりが進められています。公園内の自然体

験の適正な誘導と配置は、地域財源の確保・活用と組み合わせるこ とで、保護と利用の好循環を生むための方法論になると考えられま す。そこで今回の研究会では、自然体験に関わる計画、地域財源と の組み合わせをテーマとして課題、論点を共有し、議論しました。

自然公園研究会は、自然公園をはじめとする自然地域の管理や、 望ましい利用の促進などについて、研究を推進し、知見を共有する、 当財団が事務局を務める研究会です。2012年より継続的に開催して おり、行政、公園管理者、研究者、学生、観光事業者など、誰でも参 加可能なオープンな研究会として、様々な立場の人が、多様な視点 から自然地域の望ましいあり方を考え、議論を行っています。

ITBツーリズムビジネスカレッジ ~国際観光ビジネス科の皆さんが来館されました~

JTBツーリズムビジネスカレッジ (旧: JTBトラ ベル&ホテルカレッジ) 国際観光ビジネス科の皆 さんと髙野講師が来館されました。当日は旅の図 書館での課外授業のかたちで、観光に関する資料 を調査し、今後取り組む予定の卒業論文等の準備 にあたりながら、熱心に講師と意見交換している 姿が印象的でした。

学生の皆さんからは、『卒論のテーマが絞るこ

とができてよかったです』『非常に刺激的な体験 でした』などのご感想をいただきました。また、髙 野講師からは、『豊富な蔵書を活用して新たな視 点で図書館と学校との連携を進めていきたい」と いう意見を頂戴しました。

旅の図書館としても積極的に新たな図書館利 用のかたちを創り出すような取り組みを進めてい



旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します!



のインバウンド対策をわかりやすく紹介する。

INBUUNI





モルドバ大使からの報告



アニメ地域学

ツーリズム・プロダクトの社会的価値「魅力」という表象 安福 恵美子 著 流通経済大学出版会 2023年10月 149頁

ツーリズムにおける地域観光の魅力や価値基準はそれぞれの主体によって変容す る。地域のすべてのステークホルダーにより創出される成果物としての観光資源の 社会的な価値を、具体的な住民意識調査も織り込んで問う。

上質なホスピタリティサービスを提供する「察しのスキル」 客室乗務員はなぜ寄り添うことができるのか

森 きょうか 著 晃洋書房 2023年12月 165頁

日本文化独自の茶の湯のもてなしに見られる「察し」の行動を、「察しのスキル」と して概念化。期待以上のサービスとして顧客の感動と安心感をもたらすホスピタリ ティ創出のメカニズムを客室乗務員としての経験と豊富な事例から分析する。

国境の島々のダイナミクス

ーインバウンド観光をめぐる九州・沖縄のポジショナリティ・シフトー 高木 彰彦 著 古今書院 2023年12月 207頁

日本の国境地域を取り巻く環境は、21世紀に入り大きく変化しているが、国のイン バウンド政策のもと国境の島々にもクルーズ船で直接来訪するアジアから訪日客が 急増している。九州、沖縄の島々を事例にアジアにおけるダイナミクスを可能性と課 題を含めて語る。

観光の公共創造性を求めて

ーポストマスツーリズムの地域観光政策を再考する 上山 肇 須藤 庸 増渕 敏之 編著 公人の友社 2023年12月 296頁

観光を巡る社会的な状況はコロナ禍を経て岐路に立つ。経済的な効果のみなら ず、新しい文化として地域の価値と連携を、観光が持つ「光と影」を通じて創り上げ ていくことが問われている。多様な視点、豊富な事例をもとにした示唆を提供する。

小さな会社のインバウンド売上倍増計画

54の「やるべきこと」と「やってはいけないこと」

移動時代のツーリズム 動きゆく観光学

村山 廖輔 著 日経BP日本経済新聞出版 2023年12月 216頁

グローバル化の進展と移動に関連するテクノロジーの発達にともなう[移動時代] における観光の変容を多角的に考察する。動的な観光学の姿を示すことで移動時 代の観光について新たな形を打ち出している。

神田 孝治 遠藤 英樹 高岡 文章 鈴木 涼太郎 松本 健太郎 編 ナカニシヤ出版

「インバウンドの完全復活」と言われる今、小さな会社が「やるべきこと」と「やって はいけないこと」を専門家が徹底解説。事例を交えながら、今日からできる売上UP

モルドバ大使からの報告 国際交流分野を志す若者の皆さんへ 片山 芳宏 著 ザメディアジョン 2023年11月 183頁

外交活動の最前線でさまざまな課題にチャレンジを続けた著者が、厳しくも充実感 に満ちた43年間をつづる現場報告。ウクライナ避難民流入の中でモルドバ大使を 務めた3年間や、若き書記官時代の模様などで構成されている。

アニメ地域学

奥野 一生 著 竹林館 2023年12月 317頁

漫画やアニメのゆかりの地を巡ることを「聖地巡礼」と称することが定着した今、日 本全国から88の地域を選定している。また国土地理院の地形図で位置を明示して いることは地域との繋がりを推し量る意味でも興味深い。

この地域誌が面白い! 最近購読を始めた雑誌を紹介します

『月刊やいま』

1992年創刊、日本最南 端の出版社が発行。八 重山諸島の自然・歴史・ 文化、地元で暮らす島人 も登場。鳥々の生活情 報が溢れた一冊。

『めぐる、』

普段の生活で見過ごし てしまいそうな景色や時 間を取材、「次世代へ繋 げたい」と感じる文化を 発信。徳島の素顔の魅 力が詰まっている。



『まちづくりを再発見できる 情報誌 DOBOKU』

北九州市建設局総務用地部総務課

北九州市の都市計画、環境、 生活インフラ、歴史、自然など の話題の施設を175選紹介。 「十木技術者|作成ならではの 視点による解説や写真が面白 い。一読の価値あり!

